

日本海区水産試験研究
術会議研究振興費関係担当官会議

連絡ニュース

海

本

日本海北部六県(石川、富山、新潟、山形、秋田、青森)のイワシ漁況予報会議は、昭和二六年三月、当時日本水研があつた七尾市で開催されたのに始まる。

この会議は日本水研と各県の漁況予報及び資源調査担当者が三月までの調査資料をもつて春期大羽イワシの漁場及び漁期、さうに漁獲物の主体をなす年級群や数量を予報して大羽流網漁業の経営を合理化しようこれが目的であつた。

最初の四十五年は、漁場と漁期を予報したが、資源調査の資料が多少累積されると共に数量及び年級予報を加味するようになり、また漁場や漁期の予報も年と共に精度を加えるようになつた。その結果関係業界から多くなつた。

日本海北部春季大羽いわし

内橋潔

潔

で開催された北部

六県大羽イワシ漁況予報会議において

去る三月日本水研

の業績を総括的に結集して、今後の発展に期するこ

とが必要である。

第一回調査は三月上旬に実施され、今後

数回行なうが、その結果は日本海西南海域、北海道海域、北部日本海、等に棲息する魚群の混合、形態、生態の差異に関する懸案を一挙に解決するものとして注目さ

れている。

日本海区水研では、佐渡周辺で非常な功を収めたスケソウ延繩による切断標識放流を福井県水試と協同で、若狭湾において、各試験研究機関はさうして一段と深く且つ広い問題に向かふべく努力を怠らぬ。

二月十八日二日、水産庁で右の三会議が開催され、日本水研からは下村開発部長が出席した。本年度日本海関係では予報調査の国庫補助額一、六三八千円、調査船俊鷹丸による極前線調査が決定し、振興費研究の経過報告、明年度計画が活潑に討議された。

発行所 島代万研究所
新潟市日本海区水産研究所
印刷所 第一刷
株式会社

海況漁況予報調査担当官会議・水産庁調査船運航会議・農林技
術会議研究振興費関係担当官会議

頃から、スケトウダラ、マスの類、サメの類、ブリやサンマなど種類が多い。

だから現在となつては、大羽イワシに関しては、從来における予報に必要な一応の原理と資料蒐集の作業を出来るだけ簡略なものとして、常識化しそして定常的な作業にまで転換して、各試験研究機関はさうして一段と深く且つ広い問題に向かふべく努力を怠らぬ。

若狭湾でスケソウ

ダラ標識放流

主なる項目 第97号

- 日本海北部春季大羽いわし漁況予報について……………内橋潔
- 第11回漁況予報出陰ロック会議について……………千田哲資
- 日本海の海底地形と底質(続)……………星野通平
- 昭和34年春季大羽いわし漁況予報……………

このように関係者の同心と期待が強くなつた事は、この種の仕事を通じて、業者と水産試験場、さらに各県水試と日本水研との関係が緊密になつて、この種仕事の能率が向上したことは、今後にける各種の試験研究の実践の在り方に指標を与えてゐる。イワシ漁況の予報は一つの実例であるが、日本海側には、イワシ漁況予報と同様に海況と魚族の来歴と現況を把握して、精度の高い漁況予報を実施しなくてはならない魚種として、アジサバの

□□□□

第十一回 漁況予報山陰

ブロツク会議について

□□□□

この会議は去る三月十八、十九の兩日、觀光島取の名張、久松閣で開かれ、各県担当者出席のもとに、和氣あいあいした中にも、終始熱心な討論がなされた。参考迄にその経過をお知らせすると共に、他ブロツクの行き方や、当面する問題等を各ブロツクが本誌上で紹介して下さる様お願ひする。

福岡県水産試験場	渡辺昭二	兵庫県水産試験場	名角辰郎										
小林克一	星野 達	山口県外海	丹羽正一	島根県	中野麟一	"	千田哲資	児島俊平	"	児島俊平	"	今岡要二郎	"
山口県外海	丹羽正一												
島根県	中野麟一												
"	千田哲資												
児島俊平	"												
児島俊平	"												
今岡要二郎	"												

議題

山陰ブロツク漁況予報会議の歩み

児島俊平

九州ブロツク漁況予報会議は如何に運営されているか

渡辺昭二

中部ブロツク漁況予報会議は如何に運営されているか

名角辰郎

山口漁場の大羽いわし漁況予報の方法

藤井泰司

山陰漁況予報の方法

丹羽正一

今後の運営について

全員討論

山口漁場はどう動くか

千田哲資

I 趣旨及び経過概要

一九五六年に浜田市に於て山陰ブロツク漁況予報会議を結成して以来早くも三年目を迎え、この間に十回の予報会議が開かれた。会議には各県の担当者が参加して毎回熱心な討議がなされ、幾多の成果を挙げて来たが、十回を重ね、十一回目に当るこの会議が一層みみのり多いものである様にし

たとの考え方から前記の議題をえらんだ。

II 過去十回の漁況予報山陰ブロツ

ク会議の成果と欠陥

III 今後の運営についての取決め

1 ク内の統一指針を作成するに至つていな

い。

IV 次回の会議

1 当番県 島根水試
2 テーマ 大羽いわし、あじ、さば
3 時期 十一月

ことから科学的な根拠を求める氣風が芽生えた。
ことから科学的な根拠を求める氣風が芽生えた。

1 とにかく漁況予報事業が不可欠のもとのとして内外に認められ、漁業者自身の中にも単に感や経験から漁況漁場を予想する事から科学的な根拠を求める氣風が芽生えた。

2 対馬暖流調査の成果の上に立つて幾つかの仮説を設けて予報しようとし、実行中でそれらの仮説の検討がなされ、進歩がみられた。

即ち予報事業に最も早くから取り組んだ島根水試(児島技師)が過去十回の本会議の歩みを振り返って話題を提供し、隣接ブロツクの行き方を参考とするため福岡水試(渡辺技師)、兵庫水試(名角技師)が夫々九罰ブロツク、中部ブロツクについて説明した。

3 一面未だ各担当者が既往の多くの研究成果を充分に学び活用していない嫌いがあり、且つ予報の内容(漁期、漁場、漁獲高の別、或は長期か短期か)、誤差の範囲(採用する方法によつて不可避の等について、現在の研究レベルに応じた可能な限界を明確に自覚していな面がある。

4 予報会議を通じて幾多の進歩した点はあるがその進歩は必ずしも系統的な進歩ではなく回を重ねるごとに「実際に役に立ち、自信をもつて出す予報」の方向に一步づつ着実に進んでいるとは云えない。

5 主要テーマの他に「研究余談」的な話題もとり上げる。

6 従来、年間三回開いていたが今後二回とする。

7 中部ブロツクとの合同会議の実現するため、本年七月山口で開催を予定されている第三回日本海水試西部ブロツク会議の漁撈会議をもつて漁況予報合同会議にあつてみたい。

8 今後、日本海全体の合同漁況予察会議実現に努力する。

9 山陰ブロツク漁況予報会議の会誌は発行しないものとし、「日本海区水産試験研究連絡ニュース」を活用する。

10 法則性探求の努力が不足し、未だブロツク内の統一指針を作成するに至つていな

い。

11 研究連絡ニュース

日本海の底質

日本海の海底地形と底質

(続)

星野通平

探魚

泥分布地域は好漁場

大陸棚上の底質でおもしろいのは、泥の分布でしょう。とくに、大陸棚上に分布する青泥は、栄養分のおおい上昇流や沿岸流を指示するものとして興味があるものなのです。上昇流にともなつて分布

すると思われる青泥の例は経験山沖の陸棚外縁のものであり、沿岸流にともなうものとしては、新潟北東沖のものがそれらうと思います。青泥分布地域は好漁場であるという私のこのような考え方には、石川水試の田畠船長の報告によつても支持されております。青泥の色は、有機物を培地とする硫酸還元菌による硫化鉄の色と云われます。

海底の砂礫

海棲動物の生産力の基礎となる植物のものは分布としては、沿岸水分布地域（陸上植物残渣など）、上昇流発生地域（植物プランクトン）、岩礁地域（海草）などが考えられます。このようにみますと、堆積型大陸棚の一部は、このいづれにも該当せず、『海底の砂漠』とよばれるようなところがあります。このようなことは、水産の

方がたのほうがくわしいと思いますから、ぜひ御意見をきかせていただきたいもので

す。なお、植物プランクトンの発生は、火山爆発による無機栄養源の供給によつても促進されるようですが、この例は日本海ではありません。これをたしかめるために、私は、来月、鹿児島湾の採泥についてきます。

白山瀬の岩片

もう一つ、石ころのはなし。かつて、田畠船長におくつでもらつた白山瀬の岩片をしらべているとき、飛驒や能登に分布している、日本一ふるいといわれている片麻岩によくにしたものがありました。私はもともと、大和堆などをはじめとする西南日本海の諸堆の土台はこのようなるい岩石でできていると考えていましたから、このとちしておこびました。ところが、岩石学者にみでもらいまししたら、はんれい岩の変化したもので、飛驒片麻岩よりずっと新しくものであることがわかりました。しかし、この石ころ一つからも、日本海の成因をとくいくつかの面白い手がかりがえられたのです。

むすび

大部ながらとかきましたから、このへ

この国では、四季の変化がはつきりしていたので、それのもつ特徴は人々は適応し、その境地を愛してきた。だから

日本人によつて形成された有形無形の文化に四季の影響が大きかつたことは否めない。

くる季節を主題とするものに俳諧がある。昔から季題と云うのが重視され、人々の心情は、季節からくる感触に支配されていた。それで、俳諧と云うものは、自然や自然と人、さらに入間の心情を自由ほんほんにうたいあげるには、もどかしいうらみがあつた。

限定された境地における人間の文学的行動も、今日ではその牆壁が取り払われていると云えるほど季節感が時には薄らいでいる。

1月になると久能山のいちごが出る。またみづばやせりやたけのこやうどのよ

んで筆をおこうと思います。星野鳥取水試の水試の方たに、かさねてこのことをお願いいたします。私たちの煙管は、あまりにもヤニがつまりすぎているのではない

(海上保安庁水路部海洋研究室理学博士)

た春のことぶれを常民の生活にもたらす類の野菜も既に寒中から出廻つてゐる。かつてのこと、初夏の初堅魚をめでた事など、もう語り草となつてしまつた。

